

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2171300599		
法人名	株式会社 アイ・ディー・ジャパン		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	岐阜県加茂郡東白川村越原16-1-1		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年 2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2171300599-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2171300599-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成28年12月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>・地域の行事に参加したり、散歩やドライブ、買い物、外食といった外出を日常生活に取り入れてホームにいながらも地域に根差した暮らしを提供している。</p> <p>・旬の食材を使った料理や郷土料理、行事料理の調理、また、居住空間の飾りつけ制作などを利用者の個々の力に合わせて役割の分担を一緒に行って季節感を味わっている。</p> <p>・職員全員がそれぞれの個性を生かし日常の業務に創意工夫をして取り組んでいる。</p> <p>また、利用者個々のニーズにこたえられるようなケアの向上を目指してスキルアップに努めている。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>ホームの理念である「お互いに支え合いながら楽しく生活する」、「家庭的な雰囲気でも自分らしく生活する」が、職員のチームワークによって見事に実践されている。ホームは、地域の一般住宅をバリアフリーに改装したもので、1ユニット9名の利用者と職員が暮らすには十分な広さが確保され、温もりのある居心地の良い建物である。</p> <p>利用者の自立度の高さを活かし、職員は利用者個々の能力を見極めて支援している。雑巾縫い等の裁縫を楽しむ利用者や包丁を握りごぼうのさがき作りに腕を振るう利用者等があり、レクリエーションのカルタ取りには大きなテーブルに利用者全員が集まり、職員と共に競いながらカルタに興じている。自由に家族の許に帰宅し、連泊する利用者もいる。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた東白川で安心して穏やかに過ごし続けられるような運営理念を作っている。どんな時でもお互い助け合い支えあいながら楽しく自分らしく暮らせる家庭的な場造りを実践している。	ホームの理念を大きな筆文字にして、玄関の目立つ場所に掲示している。職員は理念に沿い、利用者、職員、関わる人が互いに支え合い、自分らしい暮らしを継続できるよう話し合っ実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小さな村で唯一の入居施設ということもあり近隣や地域や行政との関わりも深いものになっている。日常的な外出や行事で利用者の社会参加にも努めている。	利用者、職員が暮らしてきた長閑で自然豊かな場所に所在し、地域の文化祭、祭り、地歌舞伎に出かけ、馴染みの知人、友人と交流している。地域の老人クラブが定期的に訪れ、ホームの掃除に協力している。	地域のつきあいは頻繁にあり、良好な関係を築いている。今後、ホームの認知症介護の専門知識を活かし、更に地域に貢献、交流する機会を設けるよう一考願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室の方との交流会や老人クラブや個人のボランティア活動、学生の職場体験などを通して地域に啓発している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月の一度の会議ではホームの現状報告や課題の提供、意見交換を活発に行い防災対策や利用者の入退去の流れの円滑化に活かすことができている。	年6回開催の運営推進会議には家族、地域、行政の参加がある。参加者は同じ地域に暮らす顔馴染みの関係にあり、利用者のごことを親身に考え、災害・防災対策、行政・地域イベント情報等で意見を交わしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当職員は運営推進会議に毎回参加して下さっており、ホームの現状をよく把握していただいているので常日頃から相談がしやすい。	行政は運営推進会議に毎回複数の部署から出席し、有益な意見、情報を提供して協力する関係を築いている。行政の職員、ホーム職員は同じ地域に暮らす知人であり、日常的に相談や報告をする関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会などで職員全員が「身体拘束をしないケア」を確認し合い安全な環境づくりを提供している。スピーチロックについても取り上げてみた。	身体及び言葉の拘束についてホーム内研修を実施しており、職員は拘束をしない介護について理解している。出入り口を開放し、転倒の危険のある利用者には、居室に畳を敷いてベッドを布団に変え、拘束なく対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースで上がった事例を検討したり、職員がお互いのケアを見直したり相談したりホーム内で拘束の見過ごしがないように注意をしようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで対象になうようなケースはないが制度についてはどの職員も概要を学び今後に向けて学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり利用者と家族に十分な理解と納得をしていただき、契約後も質問や相談があれば丁寧な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が常日ごろから職員や会社に要望を出しやすい関係づくりをし、訪問も定期的にしていただくような機会をつくっている。	通院は家族の協力を得ており、家族が頻りにホームを訪ねている。職員は利用者の様子を家族に伝え、意見を確認している。家族に実施した満足度アンケートでは、全員から「満足」の回答を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングや日常業務内で意見や要望をまとめ会議に本社の参加がない時でも密に連絡を取り対応していただく体制をとっている。	毎月職員会議を開催し、職員は利用者の支援を中心に熱心に気兼ねなく意見を表している。管理者は職員の要望等、必要に応じて個人面談の機会を設け、職員の個別の意見にも耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規定、給料規定にのっとり人事考課なども取り入れ評価をしていく体制を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内などは各施設に直接届くため、内容を確認して、必要な研修は業務として認め参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同村内に同業者がないため、積極的な交流は現実的に難しいが、村外への研修などで交流が出来ることを期待している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時は利用者に関わっている人々やサービスからの情報も活かして全職員が細かな気づきを意見交換しながら一日も早く新しい環境で安心して過ごしていただけるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同じく入居前や入居時はさまざまな情報提供を活かして全職員が細やかな気づきを意見交換しながら一日も早く安心して任せいただけるよう努めなんでも話していただける信頼関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前任のケアマネやかかわった方からの情報に基づいて利用者と家族のニーズに合ったサービスが提供できるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が利用者を「一緒に暮らす家族のような存在」という意識をもち、上下関係のない持ちつもたれつの仲を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の考え方やそれぞれの家族関係に合った方法で「共に利用者を支える」意識を大切にいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も自宅や地域に出かけたり家族や知人に会う場を作っている。	利用者はこれまで暮らした地域の地歌舞伎や行事に出かけ、馴染みの知人と挨拶し交流している。地域の知人がホームを訪ね、馴染みの関係を継続しており、法事や墓参りに家族と出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が利用者個々の特性を知り人間関係を常日頃から把握することにより集団生活が円滑にできるようにセッティングなどで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移られた病院や施設に面会に行ったり様子をご家族に伺うなどして経過を把握している。家族が懐かしまれてホームに顔を出してくださることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や態度、表情などで希望や意向をアセスメントし、変更時はケアプラン見直しに反映している。	職員は、「介護記録」に利用者の会話の内容や表情を在りのまま記し、思いや意向の把握のヒントになるよう努めている。計画作成担当者は、記録を参考にして介護計画に反映させようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時 利用者と家族はもとよりこれまでかかわりのあったサービスやケアマネからの情報提供を基にアセスメントをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が日常の中で利用者の細かな気づきを意見交換し状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや日常の業務の中で、また、介護記録で申し送りをする事により利用者個々のケアプランやモニタリングに反映する意見を出し合いそれをケアマネがまとめている。	毎月、モニタリングを行い、利用者、家族の意見を確認の上、職員の意見を添えて3ヶ月を目処に介護計画を見直している。計画作成担当者は、介護計画に利用者の思いや意向を反映するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かなことでも変わったことや重要なことは落とすことがないように赤ペンで強調するなどして記録し職員間で周知する。それを基にケアの実践や変更を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々のニーズに応えるため既成にとらわれないように家族や地域を巻き込んで対応することに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全職員は村内か近隣に住んでおり地域の様子をよく把握しているため利用者個々に合わせた地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は診療所のかかりつけ医に家族の付き添いで行っていた。ケースによっては往診や職員の付き添い受診、家族に同行の対応とし情報提供は家族を通してか電話で医師に相談している。	ホームの協力医を利用者全員のかかりつけ医とし、同病院の訪問看護師と連携して利用者の健康指導に努めている。利用者の通院は家族の同行とし、家族が利用者の状態を把握できる機会としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一、法人内の看護師の訪問があり健康管理や相談をおこなってきたが、看護師の退職後は村内の診療所との提携を行い、24時間の電話対応などをしてもらうことになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関と密に連絡を取り文章で情報交換を行い入院中には担当者会議や退院後支援についての話し合いの機会を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りについての指針」は入居時に利用者や家族に説明し同意を得ているが、提携医療機関の機能上最期までホームで過ごしていただくケースはここ5年位ない。	入居時に利用者、家族に看取りの指針を説明し、同意を得ている。家族の要望のある場合には、医療行為を伴わない看取りを受け入れることとしている。過去に家族の宿泊を支援した看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間やミーティングなどで事例に合わせて対応を周知している。現在、利用者へ異変があれば救急搬送が原則なので実践も何回か行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H23に大雨で実際に避難をしたことが良い反省と改善に結びついているため、ミーティングや運営推進会議、防災訓練ごとに全職員や家族、地域、行政が災害対策の最善案について概ね把握するようにしている。	年2回の防災訓練を実施している。内1回は消防署の立会の下、避難、通報、夜間・水害想定訓練を実施している。職員への抜き打ちの通報訓練も行い、有事に活かせるよう取り組んでいる。	災害時には、周辺住人の協力を得る関係を築いている。避難時の見守り等、住人に依頼する具体的な協力の内容を示し、災害時に速やかに行動できるよう望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	よそよそしくならぬよう、またなれなれしくならぬように利用者個々に合わせた言葉遣いや対応に努めている。小さな村なので利用者の様子について家族以外の人もホーム外で尋ねられるが守秘義務の遵守を徹底している。	利用者の呼称は、利用者の希望を反映し、殆どの利用者について「下の名前にさんを付けて」呼んでいる。支援は何事も利用者の了解を取り、職員の都合とならないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々が遠慮せず意見や感情を作り細かな気づきをして利用者本位の徹底をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全職員がどんな時でも利用者本位で本人のペースで生活が送れることを大切にすることに心がける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類が自分で選べるような場面を作り昔からの習慣も取り入れている。身だしなみも手助けすることにより関心や安心感をもっていたいっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の生活で最も関心のある食事は食材選びから下処理、調理と個々の力に合わせて一緒に取り組み、季節を感じていただけるように食事中に声をかけたり食べやすくしたりして楽しんでいただいている。片づけの参加も積極的に取り入れている	利用者は食材の買い出し、包丁使用の下ごしらえ、盛り付け、皿洗い、テーブル拭きと、出来ることを担当し、誕生日は利用者の希望を反映したメニューとしている。安全を考え、薄味、粥、刻み食を導入している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取した食事量や水分量は毎回、体重は月に1回個々に記録し変化がないか観察、検討をしている。摂取に問題がある場合は介助や形態を創意工夫して問題があれば主治医との連携をする。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事やお菓子に合わせ緑茶を2杯ほど飲んでいただき、随時全員ではないが声かけをして歯磨きを行っている。夕食後は全員の義歯を洗浄し口腔ケアを確実にしている。必要に応じて歯科受診や訪問歯科の協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着やパッド、防水製品の使用や介助方法は利用者個々の能力に合わせて自尊心を尊重しながら援助している。	排泄記録を付け、日常や職員会議を通じて快適な排泄となるよう支援方法を決めている。排泄の見守りの必要な利用には、他の利用者の視線に触れないよう、入口に手作りののれんを掛け、外から見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者が個々の排便の有無と量や形状を確認、観察、記録しチェック表にも記入して全職員に状態がわかるよう申し送りや食事や服薬の対応や行動への変化への対応ができるようにする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員1名で一般浴槽を用いて一日おきに午後後に利用していただいている。臨機応変で入浴日を変更するなど可能な限り希望にこたえている。	1日おきの入浴を支援し、入浴剤を使用したり、希望の湯温にしたりして、入浴を楽しめるよう努めている。入浴の苦手な利用者には、声掛けに工夫し、難しい場合は時間を変える等、納得を得た入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のペースに合わせ昼夜問わず居室で休んでいただき温度や音など快適な環境作りに心がけている。居室以外でも居間など休みたい場所があれば安全に快適に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の記録に薬の説明書をファイルしお薬手帳に履歴も貼っている。場合によっては薬剤についてネットで調べたりかかりつけ薬剤師に		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や仕事、趣味に合わせて家事や娯楽、手作業、外出などを取り入れながらアセスメントをして幅広い活動をしていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩やドライブなど日常的に取り入れている。季節の行事を取り入れ非日常的な日課も取り入れている。家族と外出が可能な場合はホーム外でゆっくり過ごしていただいている。	気候を考慮した周辺の散歩や、ホーム屋外の食事会、お茶会を、外気に触れる気分転換を図る機会としている。買い物、外食、花見外出等、ドライブを兼ねて出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の利用者は自分で金銭を所持している。買い物の希望があれば利用者本人に実際選んでいただき購入することを助けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	制限なく電話を使っただき、できない場合は職員が働きかけたり介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のほとんどが居間と台所の共有スペースで過ごされているため季節に合わせたレイアウトや飾りつけをし日課がわかるような大型カレンダーや入浴表を掲げている。居心地がよく安心して快適に過ごしていただくよう問題がないか適時見回りし、整頓や清掃、備品交換などを行っている。	大きな一般住宅をバリアフリーに改装した天井の高い開放的な空間である。利用者の集うリビングは、対面キッチンのあるテーブル席のエリアとテレビ付きの応接セットのエリアに分け、利用者は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の人間関係や能力に合わせ座る位置や家具クッションを工夫し快適に過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般住宅を改修したホームのため部屋の大きさや間取りに差はあるが利用者の能力に合わせて部屋替えをすることもありベッドや家具の位置、向きなども工夫している。誕生会色紙や作品なども飾っている。	畳敷きの床の間付きの居室、洋室にベッドの居室、中には和室に布団を敷いた居室もある。家族の写真や化粧道具、鏡、目覚まし時計、人形、雑誌等、利用者の希望の品が自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般住宅を改修したホームのため奥にある居室での様子がわかりにくいことや動線が長い、角があるなどの問題はありますが段差解消や手すり設置、家具の配置の工夫と適した履物を使い安全に過ごしていただけるよう常日傾心がけている。		